

神は人の歩む道に目を注ぎ、その一步一步を見ておられる。(ヨブ記 34 の 21)

His eyes keep watch on human ways, and he observes every step.

私たち自身のうちに生じる数々の問題、そうした中には、どうして神がおられるのにこんなことが起こるのか、と深刻な疑念にとらわれるようなことがしばしばある。

世の中を見ても、神はどこにおられるのかと思わずにいられないような恐ろしい戦争、自然災害、また人間のテロその他のさまざまな事件…。

にもかかわらず、ここにあげたように、神は私たち一人一人の歩む道を愛をもって見つめ、しかも神の無限に深い御計画をもって最善にされている—と信じる人たちが存在してきた。そしてそのことが魂の深いところで真実であると実感してきた無数の人たちがいるからこそ、こうした言葉が伝えられてきたのである。

その出発点は、信じるということである。まず天地を創造された神がおられる。しかもその神は、無限の愛、真実に満ちた存在である—ということを信じることから始まっていく。

この「信」は、私の経験からいえば、まず神から与えられた。大学4年の5月末のころまでは、まったくそのように信じるなど考えたこともなかった。それが突然に一冊の本のわずかな箇所から与えられた。

そしてひとたびそのような信じる世界を知らされた者は、また、自分の方からもさまざまなことに対して、その背後には神がおられるというように信じていこうとする意志が重要になる。 そのように信じた上で、神が生きて働いておられることを示してください、と求めていく。「求めよ、そうすれば与えられる」と言われているとおりである。

「義人は、信仰によって生きる」(旧約聖書 ハバクク書 2:4) という古代の預言者に示された言葉は、現代の複雑な世界においてもそのまま成り立つ。「信なくば立たず」という中国の思想家(孔子)の有名な言葉は、単に政治の世界で成り立つ言葉ではなく、人間同士、そしてその人間を創造された神と人とのあいだにも成り立つ言葉である。

神が人のすべての歩みを見ておられると信じる、しかもそれは愛に満ちた目で見てください、と信じるとき、「神を愛する人たちには、万事が益となるように共に働く」(ローマの信徒への手紙 8 の 28) というのも真理であるが体得されていく。

また、同時に私たちを悩ませ、世界をも覆っている闇の力も最終的には、神の全能の力によって滅ぼされて、「新しい天と地」(黙示録 21 の 1) とされること、私たち自身も、「キリストの栄光のから

だ」と同じような存在にしてくださる（フィリピ書3の21）、ということも信じられるようになる。

野草と樹木たら チングルマ 大雪山系縦走路にて 2017.7.18 撮影



チングルマは、高山に咲く花として広く知られていますが、この広大な群落に接して目を見張る思いでしたし、いったい誰が、いつ、どのような意図でこのような群落を…と思われたものです。ほとんど誰も人影もない高山にて、無数の花たちが、白い衣を着て賛美をしている姿は、心深くに

のこっています。

これは、草のように見えますが、バラ科の小低木で、本州中部以北や北海道の高山では親しまれていますが、さらに北方のサハリン、千島、カムチャツカ、アリューシャンなどにも生育しているということです。この花が咲いたあとはカザグルマのような形となり、稚児車（ちごぐるま）と言われ、それがチングルマとなったといわれています。

春になってようやく草木の芽も見られ、花々も咲き始めることになれている私たちからみると、寒さの厳しいところでは、美しい花々は見られないと思われがちですが、高山や北方の寒冷地でも多くの花々が短い夏のあいだに一斉に美しい花を咲かせるし、長い寒い氷雪に覆われるときでも生き延びていく強靱な力を与えられているのを感じます。

この写真は大雪山系の縦走路に見られた広大な群落で、はるかな太古の昔から、大雪山という火山の長い歴史の中から、徐々にこうした植物が生育し、現代に至っているのを思います。

人間、その社会の実態とはおよそ異なる清められた世界を神は私たちにこうした自然の姿をもってさし示しておられます。（文、写真とも T.YOSHIMURA）